

立命館大学
半導体応用研究センター センター長

金子 健太郎 氏

滋賀県は、県内の中小企業を対象に半導体や宇宙、AIなどの先端産業への参入を支援する「リスキリングブリッジ創出事業」を計画している。

産業タイムズ社が基礎講座を、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）の半導体応用研究センター（RISA）が実践講座を担当する。多彩な分野の研究者が集うRISAの特徴を活かし、新規ビジネスの創出につながる実践的な講座が行われる予定だ。

立命館大学教授でRISAセンター長の金子健太郎氏に話を聞いた。

——実践講座を担当させていただきます。

滋賀県の教育事業に参画



え、著名な半導体実装技術の国際会議であるICSJを誘致し、2023

ISAとして滋賀県に半導体拠点形成に対する要望書を提出した。今回の

で、ロボットや宇宙、国際拠点網構築など様々な分野の専門家が集まっている。同年10月には、大学およびRISAとして滋賀県に半導体拠点形成に対する要望書を提出した。今回の

工業系から素材系まで企業6社と共同研究を行っており、企業と大学の半導体材料開発研究の進め方についてお伝えすることができ。また、本学は国内私立大学では唯一の放射光設備（SRセンター）を保有しており、それを活用した半導体物理の最先端の研究が本学で実施可能である事は企業や研究者にとって有益である。加えて、最先端のペロブスカイト太陽電

を用いた最先端の半導体薄膜の結晶成長など、半導体企業にとって関心が高い研究をされている先生方も在籍している。ほかにも半導体国際ネットワークの構築や、九州半導体ネットワークについて取り組まれている先生方もいらっしゃるの、技術のみならず産業政策、仕組み作りの観点からも多くを学べる場を提供していく予定である。

——今後の講座の実施予定について。

金子 10月から約半年間、全8回のスケジュールを予定しており、会場はびわこ・くさつキャンパスとなる。現状、次年度以降の開催については未定だが、ぜひ定例化して滋賀県の産業活性化につながる教育事業に育てたい。

（聞き手・副編集長 中村剛）

実践的な半導体講座を提供

年に朱雀キャンパス（京都市中京区）で開催した。続く24年にも同じ会場で開催し、過去最高の参加人数を達成することができた。この流れを受けて、24年に設立したのがRISAだ。RISAは半導体の基礎研究だけでなく、応用を視野に入れた組織

リスキリングブリッジ創出事業への参画も、その延長線上の取り組みになる。——実践講座の特徴は。

金子 半導体関連産業への新規参入を考えている県内企業を対象とする。基礎的な知識を持つ

うなっていくかなど、今後の半導体産業に携わるすべての人たちの戦略的な指針となるような事例をお伝えしていくつもりである。

——具体的な講座内容や使用する設備などアピールポイント。

金子 私の研究室は重

池や、実践的な宇宙開発を行っている先生方も在籍しており、実践的な研究開発から宇宙環境等々で使用する極限環境用デバイス開発まで、多くの知見をお持ちである。さらに、世界唯一のマイクロLED技術研究や、MOCVD装置、MBE装置